

三原市公式マスコットキャラクター

やっさだるマン

使用に関するマニュアル



三原市 経済部 観光課

やっさだるマンと申します。



好きな食べ物

三原のスイーツ

趣味

人前に現れ、ハッピーをもたらすこと、やっさ踊りを踊ること

座右の銘

七転び八起き

年齢

推定 450 歳

住まい

東町のとある倉庫

性格

とても優しい。特に、子どもと年配の人に

好きなタイプ

三原なまりの女性

チャームポイント

ワイルドな眉毛とつぶらな瞳

好きな飲み物

三原のお酒。大吟醸が大好き

プロフィール

元々は三原神明市の大だるま。地元
の三原やっさ踊りが大好きで「いつか
は踊りたい」と思っていたら、平成27年
ついに願いがかなう。普段はだるまの
姿だが、やっさ踊りのお囃子はやしが聞こえ
てくると踊り出すようになった！

動きは素早く踊りも上手いと自分で
は思っている。だるまだけに「七転び八
起き」で、たまにコケることもある。

性格は顔に似合わずとても優しく、
ガマン強い。また三原のスイーツが大
好き。

やっさだるマンの踊る姿を見た人
にはハッピーが訪れる！どんなハッピー
かはその人次第。三原市内で見かけると
大きなハッピーが訪れる、やっさだるマ
ンの法被はっぴに触れると法被はっぴだけにハッ
ッピーになれるというウワサがある。

三原市公式マスコット
キャラクターに決定！

三原市マスコットキャラクター「やっさだるマン」使用に関するマニュアル

(1) 着ぐるみ着用等に伴う留意事項

着用等に際しましては、次の事項に留意し使用してください。

ア 着用者について

着ぐるみの着用は体力を消耗しますので、高齢の方や体調のすぐれない方は遠慮してください。着ぐるみの構造上160～170cmの方が着用するのが適切と考えます。また、着ぐるみは視界があまりよくない上、構造や素材の関係で動きが制限されるため、着用者は周囲の状況に十分注意してください。

イ 介添者について

着ぐるみを着脱する際は、必ず介添者を1人以上つけ、控室等において周囲の人目にふれないように着脱してください。また、着ぐるみ着用者の視界は非常に狭くなるため、演技中や移動時においても必ず介添者をつけることとし、周囲の器物や人にぶつかったり、転んでケガなどしないよう、十分に注意を払ってください。

ウ 着用時間について

着ぐるみ内部は高温、多湿となるため、1回の使用を30分程度（夏季は15分程度）とし、十分な休憩をとるとともに、水分補給を行ってください。

エ 服装について

着用の際は、以後の使用者が快適に使用できるよう、素肌が直接着ぐるみに触れないよう、長袖シャツ（汗を吸いやすい綿等の生地のもの）、清潔な手袋、マスク、ズボン（ジャージ、スパッツ等）、靴下、バンダナ（頭部）を着用し、着替えも用意してください。

オ 天候等について

着ぐるみの雨天における屋外での使用はできません。天候が変わった場合は、速やかに撤収してください。また、火気、水気には絶対に近づけないでください。

カ 取扱いについて

着ぐるみは、大変やわらかい素材でできていますので、丁寧に取り扱ってください（破損又は汚損した場合は、弁償していただきます。）。

キ 事故等の責任について

着ぐるみの使用により事故等があった場合は主催者の責任となり、協議会は法律上の責任を一切負いません。

ク 新型コロナウイルス感染症拡大防止について

イベント等参加者が着ぐるみと接触したら、介添人・スタッフ等が参加者の手指を確実に消毒してください。

(2) 着脱の方法

着脱に当たりましては、次の手順で行ってください。

ア 着用するとき

- ① 着用前に着用者・介添人・スタッフ等の検温・手指消毒を行い、発熱やかぜの症状がある場合は着用を控えてください。
- ② 介添者が補助して、着用してください。1人で着用(脱)すると、着ぐるみの各所に負担がかかるため、破損しやすくなります。
- ③ 着ぐるみの各パーツを広げることのできる十分なスペースのある控え室等を確保してください。控え室は関係者以外立入禁止区域に設けるか、入口前にパーテーションを置くなど、外部から着脱が見えないようにしてください。

イ 脱ぐとき

- ① 介添者が補助して、着用するときと逆の順番で脱いでいきます。
- ② 胴体の内側の水分や衣服の汚れなどを清潔な布で拭き取り、消臭剤を吹き付け、十分に乾燥させて返却してください。
- ③ 持つ際はパーツを持たず、収納する際は、破損しないよう注意し、収納カバーに入れます。
- ④ 着用者・介添者は、着ぐるみに触れた後に、確実に手指消毒を行ってください。



(3) 演技の際の留意事項

ア着用者向け

着ぐるみ着用者は、次の事項に留意し演技してください。

① 動きについて

やっさを踊る。手を振る。握手する。手招きをする。ポーズをとるなどを基本とし、やっさだるマンのイメージを壊すような奇抜な動きは控える。

② 発声について

- ・ 着用中は声を出さない（特に介添者との雑談は厳禁）。

⇒やっさだるマンのキャラクターイメージを壊さないため。

- ・ 着用者の感情は表に出さない。

⇒不都合な事態は介添者に対応してもらう。

- ・ 介添者との間に「緊急事態」「トイレ」などを知らせるサインを決めておく。

⇒周囲の人から殴る蹴るなどの行為を受けた際も、介添者へのサインで対処する。

③ 移動について

- ・ 進行スピードや方向については、介添者の指示に必ず従う。

⇒着ぐるみのサイズが大きく、視界が狭いため、目の届かない部分は介添者の指示に従う。

- ・ 走る行為はなるべく控える。

- ・ 着ぐるみは、構造と素材の関係から小さな歩幅でしか歩くことができないため、長い距離を歩く、階段・段差を越えることは難しいので注意が必要。



イ 介添者向け

着ぐるみ介添者は、次の事項に留意し介添えしてください。

① 位置について

- ・着ぐるみとは「付かず離れず」を心がけ、緊急時の際にはすぐ対応できる距離にいる。
 - ・必ず、着ぐるみの斜め前あたりから先導し、必要なときは手を引いて着ぐるみの歩行を補助する。
- ⇒進行方向や人、障害物の存在を確認し、着用者に伝えるため。子どもなどの突進は必ず止める。
- ・介添者が2人以上付く場合は、前後に分かれる。
- ⇒着ぐるみが振り返るときなど後方は危険。

② 声かけについて

- ・ポイントでは、必ず状況を着用者へ知らせる。
 - ・握手・写真撮影は、必ず正面から「やっさだるマン」にオーダーするようにする。
- ⇒声かけは、親しげに着用者ではなく、「やっさだるマン」へ声をかける。
- 例：「やっさだるマン、お友達が握手したいそうよ！」
「やっさだるマン、前に階段があるから気をつけてね！」
- ・控室の外で、着用者と雑談をしない。

③ 対応について

- ・周囲の状況に絶えず気を配る。
- ⇒着用者は周囲がほとんど見えないので、声かけにより周囲の状況を知らせてあげる。
- ・着用者の様子に気を配り、無理をさせないようにする。
- ⇒出演時間はあらかじめ決めておき、時間管理の上、切り上げるタイミングも考えておく。延長は避ける。
- ・介添者やスタッフが消毒液を持ち、着ぐるみに触れた人に確実に手指消毒させる。

④ 着ぐるみに危害を加える人には、毅然とした態度で注意する。

- ・お客さんからの質問へは、にこやかに答える。
- ⇒やっさだるマンのイメージを守るため、着用者が誰かということについて答えることはしない。
- ・握手や写真撮影の際、人の整理を行う。